Nagasaki Higashi
World-Wide Report
～「世界の平和と共生」に貢献するイノベーティブな人材の育成～
第６号
September 10, 2020

中学FW報告「アジフライに学ぶ町おこし」

人口が年々減少している長崎市で、長崎市の人々がふるさとに誇りを持つことができるような町おこしができないか、と疑問を持ち、三菱みらい育成財団のフィールドワーク研修に応募し、見事書類とプレゼン審査を通った中２の森永千晶さんと山口秋帆さんのFWを紹介します。

長崎県内にも様々な町おこしをしている自治体はあります。その中で「アジフライの聖地宣言」を市長が行い、行政と民間が一体となって取り組んでいる松浦市に注目しました。8月25日～26日の２日間で現地に向かい、インタビューやアンケートの現地調査を行って、町おこしの基本理念や町おこしへの様々な立場の人たちの想いを学んできました。

初日は、まず松浦へUターンし新しく起業された「松尾農園+coffee」さんを訪れました。また、松浦市役所を訪問し、「アジフライの聖地宣言」を行われた松浦市長や宣言後に地域を活性化するために活動された地域経済活性課や水産課の方へインタビューを行いました。並行して、それぞれの場所でアンケート調査を行い、市民や観光客の意識調査を行ってきました。また、企業とコラボして町の活性化を図っている松浦高校生とも意見交換をすることで、学生の私たちにできることなどについて学びました。以下に、私たちが学んだことを簡単にまとめます。

＜町おこしで大切なこと＞

2018年に市長に就任された友田市長が「アジフライの聖地」宣言を実施したことが町おこしのきっかけでしたが、市長は「これまでの松浦市の**点となっていた取り組みが、この宣言により線としてつながった**」と話されました。**自分たちの町だけでなく**、東京や福岡の飲食店と**コラボ**したり、**松浦市でしか買えないグッズ**を作ったりしました。ちなみに、アジフライグッズをデザインされている「ノンチェリー」さんは、以前コラボした福岡にある「梅山鉄平食堂」さんとのつながりで協力いただけるようになったそうです。**多くの人を巻き込んで、線となるつながりが生まれる**のだと、複数の人が話されました。また、それをTV等のメディアはもちろん、様々なSNSで情報を**複数の媒体で発信**する工夫もされていました。ただし、この町おこしは最初からうまくいっていたわけではなかったようです。多くの人を巻き込み、町おこしを継続して行う上で一番大切なのは、**「ワクワクできること」**だと多くの人たちが口をそろえて話されました。

＜地域の人たちの反応＞

アンケートで「改めて松浦のアジフライという魅力に気づいた」「観光客や遠方の友人などの反応からも松浦の認知度が上がっている」等の回答があり、**町おこしのおかげでふるさとに誇りを持てるようになった**、という意見が多くありました。

はじめ周囲が協力的でないことも多かった松浦市の町おこしですが、少しずつ協力者が増えイベントやグッズ、観光客の増加等「形」となっていくものが増えることで、成功につながったようです。ぜひ今回の学びを活かし、今後の総合的な学習や探究活動等につなげていきたいです。